「Catch Ball　キャッチボ－ル」

～地域に開かれた農場を目指して～

住　　所 ： 〒014-0054　大仙市大曲金谷町 26－9
電話番号 ： 0187-63-2257･Fax 0187-62-3434(大嶋農場:Fax 兼用　0187-68-2381)
Ｕ Ｒ Ｌ： http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp
＊農場便りに関するお問い合わせ農場経営部までご連絡下さい。

金谷農場

◆農場長より(高橋寿徳)

秋田の偉人**「農聖　石川理紀之助　翁」**は国の農業発展に生涯をつくしました。農業高校生であれば「石川理紀之助　翁」の名前と業績については覚えておいてもらいたいものだ。石川理紀之助翁は貧しい農村の農家経済の指導者として、農村の救済と農業振興に生涯を捧げました。

『寝ていて人をおこすことなかれ』（自分は動かないで他人にことをやらせてはいけない）を信念として貫き通した。

『井戸を掘るなら、水が湧くまで掘れ』など様々な名言がある。彼の生涯は農業を通じて、人の生き方在り方を教えてくださったものだと痛感する。

農業の偉大な力を私たちの将来に生かしていこう。

◆施設野菜部門より(平塚･高橋恵)

明けましておめでとうございます。

年明けから雪が少なく、例年に比べて暖かい日が多いようです。しかし、放射冷却現象によりハウス内はこのような気候が一番寒いのです。オータムポエム（アスパラ菜）の収穫が始まっています。寒い中耐えて生育したオータムポエムは茎の下まで柔らかく甘いのです。放射冷却の中収穫されたオータムポエム、ぜひお試しください。

ちなみにハウス内の気温を上げるため、２重カーテンを設置しました。この作業を一生懸命やってくれた２年生ありがとう。おかげでおいしいのが収穫できそうです！

◆露地野菜部門より(佐藤文･柏木･佐々木鶴)

柏木先生という新しいメンバーが加わりましたが、例年以上の大雪で除雪作業がメインになっています。春が近づくまで、まだまだ除雪が続きそうです。

◆果樹部門より(藤井･工藤)

剪定作業真っ最中です。ブドウが終わり、モモに入っています。今後はナシ・リンゴの順で春まで仕上げることになります。剪定作業が遅れないよう、雪があまり多くならない事を願っています。

◆花卉部門より(小松･山代)

葉ボタン、シクラメンとも好評のうちに完売しました。みなさんどうもありがとうございました。今温室では、卒業式を飾るサイネリアの苗が順調に育っています。卒業式に合わせて、きれいに咲いてくれましようにに。そして今年の冬があまり大雪になりませんように、と願っているところです。

◆食品加工部門より(伊藤寿･瀬田川)

日本初の機内食は肉のくん製品？

１９２９年８月に、ドイツの飛行船が日本を訪れました。次の目的地ロサンゼルスまでの機内食をどのように調達するかという問題を抱えていました。当時の飛行船の浮力材は水素のため、機内では火気は一切使えませんでした、そこでハムやソーセージなどの良質のくん製品が取り入れられたメニューが、提供されたそうです。

大農のベーコンは希少品？

秋田県産上品豚肉のロースバラ肉を使用しています。豚半丸枝肉を切断・骨抜き・部分肉選別後、秘伝のスパイスと製法で製品化されます。厳寒期の１月下旬から２月上旬だけの限定製品となっております。卒業生からは”幻のベーコン”とも呼ばれているようです。

◆生物工学部門より(坂本寿･大沼･齊藤･佐藤潤)

本格的な冬の寒さはまだまだ続きそうですが、生物工学の温室内ではいよいよシンビジウムが咲き始めています。栽培年数により株の大きさが違いますが、大きいものだとさすがにボリュームがあります。コチョウランも次々と花茎を伸ばしてきています。お近くにお寄りの際はぜひ温室内をご鑑賞ください。来月は東京ドームで「世界らん展日本大賞」が開幕しますね。

また、生物工学科の生徒が中心に活動している「フードマイレージと農家直販の温暖化防止効果分析」の研究チームの報告会が２月１５日に青森市「わ・らっせ」で行われます。今年は最終年で植物生産とＬＥＤの研究で有名な渡邊博之先生を交えて青森県農業高校の生徒たちと意見交換があります。詳細は次回に大沼先生がご報告いたします。

大嶋農場

◆大家畜部門より(芳賀、黒田)

今年度、唯一の子牛「大農松」がいなくなり、寂しい牛舎です。牛は寒さに強い動物ですが、コンクリートの牛床は特に底冷えが厳しいため、夏場に収穫した乾草を厚めに敷き詰め、妊娠中のお腹が冷えないように、また、体温維持のためにも乾草を不断給餌し、牛たちが健康に冬を乗り越えられるように管理しております。

今のところ、のんびりゆっくり牛歩のごとく生活している、春を待つ大農母牛です。

◆中家畜部門より(堀部、小林)

昨年１２月２４日に１０頭の子豚が生まれ、すでに１ヶ月が過ぎました。残りの３頭の母豚もまもなく出産予定日を過ぎ、いつ生まれてもおかしくない状況です。３学期に入り実習も再開され、豚舎内では元気な豚がすくすく大きくなっています。来年の早苗振用の豚も確保できて一安心できました。おいしくいただくためにもしっかりと管理して下さい。

まだまだ寒い冬ですが、今年は子豚でにぎやかになるよう中家畜部門をよろしくお願いします。

◆小家畜部門より(田口健一、冨樫)

１月２６日に、３６個の比内地鶏の種卵をふ卵器に入れ、人工ふ化を開始しました。種卵は２１日でふ化するので、ふ化の予定日は２月１６日になります。無事にひなが生まれてくるようしっかり管理したいと思います。ひなが生まれましたら、農場だよりを通じてお知らせします。

◆作物部門より(佐々木孝･佐々木周)

厳しい冷え込み（－10度）の中、水田部門は苗を育てる箱（育苗箱）に入れる床土に病気が出ないようにするための薬剤と肥料を混合する作業を行っています。以前は２人一組になってシャベルで合わせて（混合）いたそうですが、現在では混合機に任せています。

育苗箱への播種は４月２０日頃、田植えの時期は５月２０日過ぎを予定しています。